



★居着きのアジは食味も抜群

# 型にこだわるフアンが集う 走水沖のビシアジ絶好調

三浦半島走水港出船

撮影◎本誌編集部

▲食いが立つとタナ取り直後にアタリがくる  
◀朝の好時合に良型連発

▶アタリに軽く合わせて上アゴにハリ掛かりさせればバレにくい

▼同船は毎週訪れるファンも多い

▲タナは底から2~3メートル前後  
▶貸し道具完備で初心者でも楽しめる



▲ハリスがヨレたら新しい仕掛けに交換しよう



◀アジは肛門付近に硬いトゲがあるから魚つかみがあると安心安全



▲午前・午後船と通して楽しむファンも



▲アジを一晩寝かせると身に脂が回ってうま味が増す

◀30センチ前後の良型が多かった

▶ハリが外れそうなきときはタモですくおう

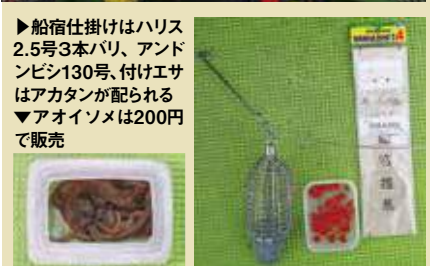
▲当日の後半は魚礁周りを上からのタナ取りで狙った



▲目下の釣り場は走水沖の水深40メートル付近  
▼まずは10尾を目標に



◀慣れた人は追い食いを狙って数をのばした



▶船宿仕掛けはハリス2.5号3本バリ、アンドンビシ130号、付けエサはアカタンが配られる  
▼アオイソメは200円で販売



▲このサイズはアジフライが最高  
◀慣れていない人は仕掛けが扱いやすい2本バリがおすすめ



基本ながら、起伏があり根掛かりしやすい魚礁周りなどは海面からタナを取るため、その都度アナウンスされる指示を聞き逃さないようにしましょう。  
(詳細は56ページ参照)



三浦半島走水沖のアジが好況だ。9月中旬に取材した走水港の関義丸はオモリ130号を使うビシアジスタイルで、7時半出船の午前船、13時出船の午後船の2便体制でアジ乗合を出船。釣り場の走水沖は港から15分ほどと近いので、半日船でも釣り時間はたっぷりある。  
釣れるのは25~35センチ級の肉厚な居着きのアジで、良日はトップ40~50尾という好模様。  
同船のタナ取りは、海底が平坦なポイントでは底から2~3メートルが



◀ハリ掛かりしたアジにウバ食いしてヒラメが登場



★黄金色に輝く個体は脂乗り乗り

